

プロジェクト研究成果概要

研究代表 菊池 明

上野悦子 仲澤一美 松山薫 柳澤和子

「明治大正人物月旦」は、鳶魚が最晩年に執筆した原稿で、鳶魚自身が接した95名の様々な分野の人物について追憶や辛口の批評を述べたもの。独特の鋭い観察眼による人物評は異彩を放っている。晩年の鳶魚の世話をした高野家に多くの関連資料とともにこの原稿が保管されていた。当研究会はこの377枚の原稿を研究し公開することを目的とし、学術フロンティア坪内逍遥研究の一プロジェクトとして参加が許された。

〔研究成果 その1 翻刻入力〕

三田村鳶魚遺稿「明治大正人物月旦」の翻刻入力の完成。

山梨県下部温泉の高野家（山梨県西八代郡下部村波高島 現山梨県南巨摩郡身延町上ノ一五二五 不二ホテル）に所蔵されていた三田村鳶魚「明治大正人物月旦」と関連資料（未公開資料）の整理公開のために以下の作業を行った。

- 1 所蔵者高野家にて資料コピー
- 2 コピーにより資料を翻刻・入力し第一稿を作成
- 3 現地（高野家）にて原本照合
- 4 内容・配列・筆跡等の検討
- 5 資料の中から人物・事項等を、索引のために抽出しリスト作成
- 6 現地にて最終原本照合
- 7 公開用本文製版作成

「明治大正人物月旦」は、その一部が「自警」に連載されたが、今回初めて全ての翻刻がなされた。三田村鳶魚の最後の著作として、またその特異な人物評は資料的価値も高い。今回の研究による翻刻・入力により、三田村鳶魚研究にも資するものと考えられる。（成果論文1参照）

〔研究成果 その2 資料寄贈〕

今回の研究の最終年度2007年9月に、所蔵者高野弥生氏から三田村鳶魚遺稿「明治大正人物月旦」及び関係資料一括を早稲田大学演劇博物館へご寄贈いただいた。演劇博物館と三田村鳶魚とは関係が深く、「逍遥先生のもとに」という鳶魚自身の希望もあって、多くの鳶魚関連資料を所蔵しているが、今回さらに晩年の執筆である「明治大正人物月旦」を加えることが出来た。

〔研究成果 その3 鳶魚晩年の研究等〕

鳶魚終焉の地において、数回の調査を行った。

「明治大正人物月旦」等の資料調査だけでなく、晩年の様子なども今回の調査で具体的に明らかになった。(成果論文2参照)また、高野氏所蔵の鳶魚宛諸家書簡の調査により、晩年の交友も明らかになりつつある。今後また改めて、資料研究の成果を発表してゆく予定である。

(文責 松山)